内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2005年6月）

◎6月の事務総局長の主な動向

6月6～9日　スーパーコム2005（シカゴ）

米国通信業界最大のイベントの一つスーパーコム2005が、シカゴにおいて米国通信産業協会（TIA）の主催で開催されました。TIA会長のフラニガン氏が旧知の友人でもあり、これまでにITU Telecomなどで協力してくれていることもあり、同氏の要請を受けスーパーコム初日の記念式典でスピーチを行いました。スーパーコムは、VoIPやWiMAXなど最新技術が展示されるとともに、多くのビジネスリーダーや米国政府高官などによるセッションが開催されるイベントで、シカゴに本社を置くモトローラのCEO、ザンダー氏など各関係者とも会って、今後の通信業界の動向などについて議論してきました。

6月13～14日　国連インターネットガバナンス作業部会（WGIG、ジュネーブ）

WSISチュニス会合に向けて、インターネットガバナンスに関する報告書をまとめるための40人の専門家から成るWGIGによるオープンコンサルテーション会合が開催されました。オープンコンサルテーション会合ということで、各国政府、民間団体、市民社会など約150名の参加者がありました。

ドメインネームの管理やゾーンファイルの管理の現状システムに、国際的な公共政策（international public policy）を反映させるために、どのような枠組みが適切なのかが焦点となり、国連との関係、条約に基づく新組織の可能性、現状システムの強化など様々な意見が出されました。このオープンコンサルテーションでの議論も反映して、WGIGでは最終報告書をまとめ7月18日に発表する予定です。

6月14日　ITU理事会オーバーサイト会合（NCOG、ジュネーブ）

昨年のITU理事会の結果を受けて、主に財政システム及び情報システムに関して外部コンサルタントを活用した改善が続けられていますが、その進捗状況を管理（オーバーサイト）している同会合が開催されました。

この1年間に導入された、各活動のコストを明確にするためのタイムトラッキングシステムや、7月の理事会に提出される新しい予算案については、ITU職員が厳しい状況にありながらも新システムをスムーズに導入して改善していることが高く評価されました。

ただし、外部コンサルタントを活用した改善を今後とも継続することには、懸念を表している国もあり、7月の理事会で再度議論されます。

6月16日　Connect the Worldイニシアティブ（ジュネーブ）

2003年に採択されたWSIS行動計画では、2015年までに世界中の村々がネットワークにつながることを目標の一つに掲げています。この目標実現を加速させるため、デジタル・ディバイド対策のプロジェクトを既に始めている民間（アルカテル、インテル、KDDIなど）、政府機関（フランス、エジプトなど）と市民団体がパートナーとして、“Connect the World”という一つの大きなプラットフォームのもとで協力しながら活動していくことになりました。

中古のパソコンを途上国に配布したり、遠隔地の村々用の通信設備の開発を行っていたりと各パートナーの活動は様々ですが、一つのプラットフォームのもとに集まることで効果的な啓蒙活動を行い、新たなパートナー、新たな活動が励起されることを目指しています。

6月28日　サイバーセキュリティーWSISテーマ会合（ジュネーブ）

サイバーセキュリティーに関する各国の取組、監視及び対応能力、技術的事項、国際間協力、プライバシーと消費者保護、途上国対策などをテーマにして同会合を開催しました。日本をはじめ、各国の取組については、質疑応答が活発で国際的な情報共有及び協調の重要性が認識されました。また、スパム対策もテーマの一つで、ITUやOECDになどの国際機関間の協調を発展させるべきとの認識から、WSISチュニジア会合期間中にスパム関連の会合を行うこととしています。

7月12日からITU理事会が始まりました。　撮影：ITU広報